

## 2008年8月3日GC研究センター夏季合宿報告

### GC研究センター今後の研究課題

センター長 江橋 崇

1 2008年4月1日、新年度の始まりに際して、幹事打ち合わせ会議を開催して、予算との関係で次の研究計画を作成した。

一応、1千万円規模で骨格的な部分を仮に予算化した。予算が不足するときは、外部の資金を確保して執行する。

(1) 国連GC事務所へのインターンの派遣	2名	$70 \times 2 = 140$
(2) ヨーロッパへの派遣	1名	70
(3) 中国での調査	1名	$35 \times 2 = 70$
(4) GCアニュアル・ミーティングへの派遣	1名	40
(5) GCアジア地域フォーラムへの派遣	3名	$20 \times 3 = 60$
(6) 各グループの研究会	5グループ×5回	$15 \times 25 = 375$
(7) 夏季の合同合宿		100
(8) 資料蒐集		70
(9) リーフレットなどの広報文書の作成		30
(10) 事務費		100

予算が一千万円を超えた場合に次の活動を行う。予算が不足するときは、外部の資金を確保して執行する。

- (11) 韓国での調査 1名
- (12) バンコクへの派遣 1名
- (13) 国連GC事務所スタッフの招聘

2 これらの計画は順調に実行されている。

- (1) 「国連GC事務所へのインターンの派遣 2名」のうち1名は、4月～6月に菅原研究員で行った。もう1名は来年1月～3月に行う。
- (5) 「GCアジア地域フォーラムへの派遣 3名」は、フォーラムが6月にソウルで開催され、江橋センター長、金研究員、土屋研究員が参加した。
- (7) 「夏季の合同合宿」は、8月に、東京の法政大学現代法研究所で行った。約30名の参加が合った。
- (8) 「資料蒐集」は日本国内での文献購入と、ニューヨーク、ソウルでの資料購入で勧められている。今後も、続行される。
- (9) 「リーフレットなどの広報文書の作成」のうち、リーフレットの作成につ

いては、7月に、日本語、英語、ハングルの3バージョンを作成した。今後、中国語版を作成するとともに、改訂版の作成に着手する。

- (2) 「ヨーロッパへの派遣 1名」は、8月～9月に菅研究員で行われる。
- (3) 「中国での調査 1名」は、11月に金丹研究員で行われる。
- (4) 「GCアニュアル・ミーティングへの派遣 1名」は10月に山崎研究員で行われる。
- (6) 「各グループの研究会 5グループ×5回」は、合同研究会として、5月、6月に行われている。Cグループは関連資料を配布した。Dグループは、研究会を開催した。
- (11) 「韓国での調査 1名」は、Cグループで担当者の人選を進めている。
- (12) 「バンコクへの派遣 1名」は、タイ、ベトナム、インドを調査対象とする方向で担当者の人選を進めている。
- (13) 「国連GC事務所スタッフの招聘」は、8月に執行する予定が延期されたが、間もなく実行される。

### 3 その後、新たに次の研究計画が立ち上がった。

- (1) 日韓市民社会フォーラム2008への参加。1995年から継続して開催されている日韓両国のNGOの交流会である「日韓市民社会フォーラム」が今年は東京で開催され、「国際協力とCSR」の分科会が開催されるので、協力して参加したい。
- (2) GCO人権作業部会への参加。GCOが開催している人権作業部会に、5月の会合（ボストン）に参加した。10月の会合（ボン）以降も継続して参加したい。
- (3) 人権宣言60周年記念「企業と人権に関するセミナー」への参加。12月にパリで開催されるこの会合に参加したい。
- (4) MDGsとGCに関する研究の推進。ピースボート洋上大学の機会を活用して、国連MDGsの担当者との連携を確立したい。秋には、国連広報センター、GCJN、(特活)ほっとけない世界のまずしさ、オリンパスなどと連携して企画を進めたい。
- (5) 人権宣言六十年記念の研究、広報の展開。GCOの発行した「企業と人権」のポスターを翻訳出版して、国連広報センター、GCJN、東京人権啓発企業連絡会、大阪同和・人権問題企業連絡会などと連携して普及したい。「GCと人権」講師団を形成して、各地での記念集会、研修会、啓発講演会などに参加したい。

### 4 A～Eの各グループの活動も始まっている。

- Aグループは、GCO発の文書類の翻訳を進めている。
- Bグループは、ヨーロッパ調査、グループの研究会を準備している。
- Cグループは、関連資料の研究、ソウル会合への参加を行い、中国、バンコクへの派遣を準備している。
- Dグループは、消費者の権利に関する研究会を開催した。
- Eグループは、COPの審査に関する研究を進めている。

5 研究員、客員研究員の増員が行われた。所属グループについて若干の整理を行った。原伸子研究員の参加まではすでに報告して承認してもらっている。今回は、山口明子客員研究員、稲垣玲奈委嘱研究員の参加である。8月1日現在のメンバーは別表の通りである。

6 GCOとの連携が確立された。

6月のソウル会合の機会に、GCOのゲオルグ・ケル所長、ソレン・ピターソンアジア地域担当事務局スタッフなどとの連携が確立し、今後の協力が確認された。

7 UNIC、GCJNとの連携が確保された。

国連広報センターとの連携が強化され、妹尾靖子所長代行が夏合宿に参加された。GCJNとの連携が強化され、パートナーシップ合意が締結され、山本茂樹事務局長が継続的に研究会に参加している（夏合宿は欠席）。

8 法政大学内の連携が強化された。

GC研究センターは、法政大学大学院のうち、PRMEに日本で唯一参加している環境マネジメント研究科、秋にCSRの研究所を設立する政策創造研究科との三者連携を推進している。この基盤のうえに、大学の総長が8月1日のソレン・ピターソン講演会にフル参加することとなっていた。講演会は延期されたが、大学内の協力、連携の関係は強化されている。秋以降は、両研究科の若手の研究者がGC研究センターの研究会に参加する。

9 規程の改定を行った。

研究員、客員研究員が、対外的に活動する上での必要性に応じて、第5条、第6条の「副センター長」を「共同代表」に改め、新規程を直ちに執行したい。当面は、山崎研究員、櫛淵研究員に委嘱し、さらに増員を検討したい。

10 『グローバル・コンパクトの新展開』の後継書籍の発行

3月に刊行した『グローバル・コンパクトの新展開』（法大出版局）は好評で、すでに、発行した1000部のうち、残部が、センター保管分、出版社保管分を合わせても、100部を切っている。今年中に品切れになると予想される。そこで、2009年4月の新学期までに、学生も手にしやすいように、内容を整理して、軽装の書籍を発行したい。前書に掲載した諸論文に加えて、2月研究会（野村）、5月研究会（中嶋）、Dグループ研究会（細川）、ソウル会合報告会（江橋、土屋、金）の報告が記録化されており、夏合宿での9報告も記録化されるので、素材的には十分の用意があることになる。前書発行の出版社等との調整は済んだ。これは、2008年度の研究計画に含められていない新しい計画なので、関連する経費については、外部からの寄付の募集及び予算の一部流用でまかないたい。

#### 添付資料

- (1) 8月1日現在のGC研究センター研究員一覧
- (2) 同グループメンバー一覧
- (3) 国連グローバル・コンパクト研究センター規程（抄）

## 国連グローバル・コンパクト研究センター規程（抄）

（構成員）

**第5条** センターにおいて研究活動を行う者を構成員と呼び、以下の者をあてる。

センター長	1名
<b>共同代表（旧；副センター長）</b>	若干名
上席研究員	若干名
研究員	若干名
客員研究員	若干名
委嘱研究員	若干名
研究補助員	若干名

（センター長）

### 第6条

5 センター長は、業務遂行上必要のあるときは、研究員の中から**共同代表（旧；副センター長）**を委嘱することができる。**共同代表（旧；副センター長）**は、センター長を補佐して、センターの業務を行い、センター長に事故あるときは、その職務を代行する。

付 則

3 この規程は、2008年8月1日から施行する。